



2023年度
地域コミュニティ学科研究教育報告書

フィールド×発見



東北学院大学 地域総合学部 地域コミュニティ学科

「フィールド×発見」刊行にあたって

2023年4月、仙台市中心部に新しく完成した五橋キャンパスにて、私たち地域総合学部地域コミュニティ学科は154名の一期生を迎え入れることができました。私たち教員も初めて使う真新しい教室に一同が着席し、これから始まる大学生活に期待と不安で胸を膨らませながら、緊張した面持ちでしっかりと前を見つめる姿が目には焼き付いています。

地域コミュニティ学科が4年間の学びの中で提供する研究・教育のフィールドは、私たちが住む身近な場所から、日本国内の都市や農村、さらには日本を飛び出して海外のさまざまな地域へと及びます。「地域」では、人々が自然と共存しながら生活を営み、また、産業を発達させ、学び、文化を育んでいます。人々の多くは学校や会社等に属し、また、地域の一員として互いの関係性を結びながら、よりよい暮らしの実現を望んでいます。地域コミュニティ学科では、そうした「地域」を幅広い視点から捉え、様々に集めたデータをもとに客観的に理解すると同時に、人々にとってよりよい地域のありかたを構想していくことができるような人材を育てることを、学科の理念としています。その最初のスタートを、新学部に集まってくれた一期生のみなさんと一緒に迎えることができたことを、教員一同、大変嬉しく思っています。

この1年間、講義や実習といった授業ではもちろん、学科パンフレット作成やオープンキャンパス、様々な学外活動のなかで、学生たちの「地域」に対する強い探究心を感じられる場面が数多くありました。また、学生の多くはコミュニケーション能力が非常に高く、自分の意見を出しながらも協調性があり、グループワークではそれぞれの個性を発揮できているようでした。「地域」でのフィールドワークは、これから年次進行とともに、さらに深く専門的なものになっていきます。きっとそのポテンシャルを十分に発揮して、素晴らしい研究成果をあげてくれると期待しています。

この冊子は、地域コミュニティ学科の1年間の研究と教育の成果を振り返り、まとめたものです。スタートしたばかりの学科ではありますが、その特徴ある学びと1年間のあゆみを、ぜひご覧ください。

2024年3月 地域コミュニティ学科長 菅原 真枝

Review of 2023

2023年度 振り返り

—学生の活躍ぶり—

4月

地域コミュニティ学科 2023年4月にスタート！

新キャンパスにて、新しい学科のスタートです。これからともに地域に出かけて一緒に研究していく仲間たちです。



4月17日撮影 地域コミュニティ学科一期生154名

4月

新入生オリエンテーション 2023年4月3日～5日

オンラインも含めて数日間かけておこなわれました。カリキュラムや時間割作成、履修登録の方法、大学生活の注意点などについての説明を受けました。



大学生生活のスタートです
リーダー(現役学生)がサポートしてくれます

先輩(地域構想学科の一期生2009年卒)からは
お祝いのお花が届きました



4月

新学部開設記念事業 2023年4月27日

新学部開設記念事業として、東京商工リサーチ東北支社との連携協定締結式がおこなわれたあと、地域コミュニティ学科と政策デザイン学科の学生交流をおこないました。

会場には学部生300名以上が参加



コミュニケーションシートを使って
政策デザイン学科の 학생さんと交流

5月

学科パンフレットの作成

学科パンフレットを作成するにあたり、学生の目線でページをデザインすることになりました。コンテンツのアイデアが次々と出されました。一期生にアンケートをとり、リアルな学生生活を伝えることになりました。



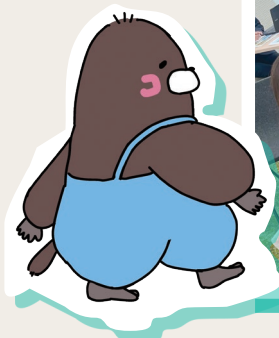
紙面構成について話し合い



プロカメラマンによる撮影



(株)ユーメディアを訪問



Review of 2023

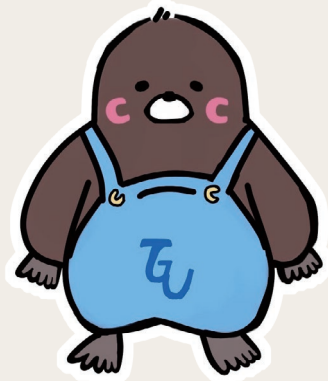
2023年度 振り返り

—学生の活躍ぶり—

5月

学科キャラクターの誕生

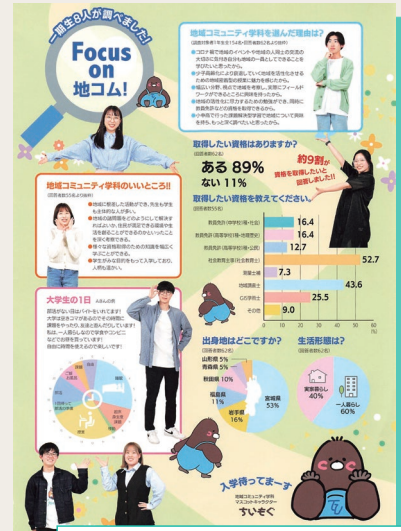
学生の発案で、学科のキャラクターが誕生しました！学科の教員たちも公認です。学科を象徴するキャラクターとして、これからいろんな場面で活躍してもらう予定です。



ちいもぐ

©.2023 Department of Regional Community Studies. All Rights Reserved.

学科1年生がデザインしたもの 誕生日は5月10日です
地域の課題を深く掘り下げるという学科のコンセプトから「もぐら」をイメージしました



学科パンフの紙面が完成！
自分たちの思い描いたものが形になった！

6月

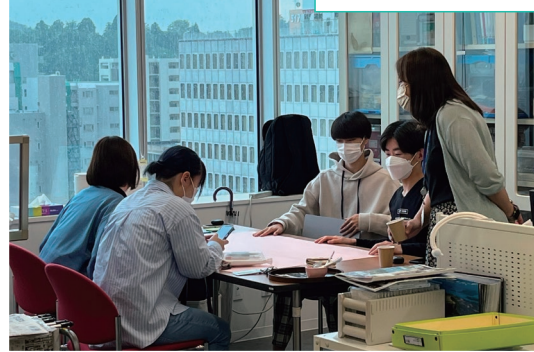
学科紹介動画と 教員紹介動画の作成

地域コミュニティ学科の魅力をたくさんの人の知ってもらうため、学生たちが紹介動画を作成しました。キャンパスライフをまとめた「ちいこむ生の一日常」と、教員紹介動画の2本が完成しました。

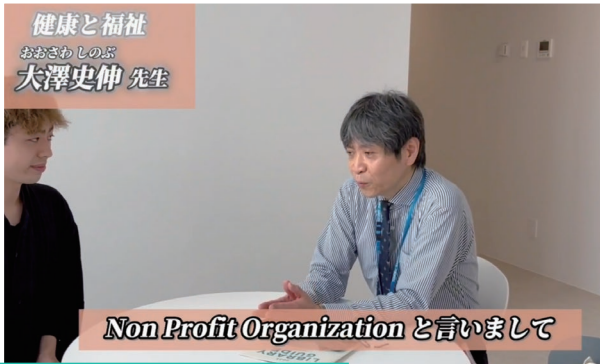
動画のコンセプトについて話し合い



スケジュールの確認



健康と福祉
おさわしの方
大澤史伸 先生



Non Profit Organization と言いまして

17名の教員全員にインタビュー！



地道な動画の編集作業

6・7月 オープンキャンパス

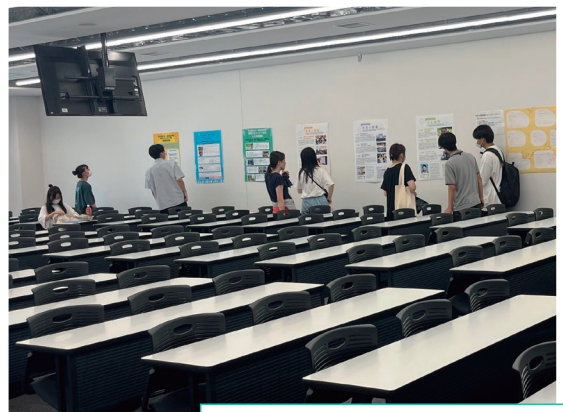
6月には初夏のオープンキャンパス、7月には夏のオープンキャンパスが開かれました。学生たちが高校生に向けて、学科でどのようなことが学べるかを具体的に説明しました。作成した動画はみなさんから大好評でした。

当日に向けての打ち合わせ



展示物の作成
授業でおこなったグループワークの成果を
模造紙に貼ります

会場の準備



来場者のみなさんが展示に見入っています



会場は満席です



終了後の打ち上げ お疲れ様でした



Review of 2023

教員紹介

「知の杜」で学び、つながり、
そのめぐみで地域社会の
未来を育む。



地域総合学部
学部長

い が くら ま さ し
伊 鹿 倉 正 司
金融論

社会と産業



い す る ぎ し の ぶ
岩 動 志 乃 夫

人文地理学・地誌学

東北地方から海外に至る商業地や観光地の形成について研究しています。
時空間の産物である地域を地図と聞き取りで考察します。



え ん ど う な お
遠 藤 尚

人文地理学・地域研究（東南アジア）

主にジャワ島やバリ島をフィールドとして、経済成長下の農村における自然資源利用や世帯生計について研究しています。



お お さ こ あ き ぶ み
大 迫 章 史

教育史・教育行政学

近代日本におけるキリスト教主義学校の特徴を、国家体制との関係で明らかにしようとしています。また、現代日本の児童・生徒の学力向上のあり方を教育行政・教育政策との関係で研究しています。



さ く ま ま さ ひ ろ
佐 久 間 政 広

地域社会学・理論社会学

過疎高齢化の著しい農山村を対象に調査研究をおこなっています。地域の共同活動、助け合いを手がかりに地域社会を考察しています。



し な だ み つ は る
品 田 光 春

人文地理学・歴史地理学

新潟県を含む東北地方の鉱山開発（特に近代の油田開発）の盛衰が地域へ与えた影響や、関連する産業遺産の保全活用について研究しています。



や な い ま さ や
柳 井 雅 也

経済地理学・産業地理学

経済の動きや地域づくりについて地図を使って考えています。地域スケールは世界から、町内会まで多様です。

健康と福祉



いづみやま やすと
泉山 靖人

教育学・図書館情報学

主に公共図書館を対象に、地域の「学びの場」に込められた思い(意図)や、それを実現するための取り組みを調査しています。



おおさわ しのが
大澤 史伸

社会福祉論・NPO論

「理念継承・理念浸透」、「社会貢献」をキーワードに営利組織、非営利組織のマネジメントについて研究しています。学校、企業、福祉施設で働く人々に対してインタビュー調査を行ってきました。



しみず たかひろ
清水 貴裕

臨床心理学

人間関係の問題について、「ものごとの見方」と「コミュニケーション」の観点から、解決・支援する方法を研究しています。



すがわら さなえ
菅原 真枝

福祉社会学・理論社会学

老人ホームで働く外国人介護士に関心があります。特に東南アジアから来ている若者たちにインタビュー調査をおこなっています。



はら よしひこ
原 義彦

社会教育学・生涯学習学

地域の生涯学習を推進する公民館の充実方策を研究しています。北欧の成人教育施設の現地調査もしています。



ますこ ただし
増子 正

地域福祉学・社会福祉学

地域の福祉課題を解決するインフォーマルな活動の財源を確保するための方法(ファンドレイジング)を国内外で調査しています。

人と自然



いとう あきふみ
伊藤 晶文

自然地理学・地形学

主に東北地方の沖積低地、海岸砂丘の成り立ちや、大規模イベント(巨大津波など)による地形変化に関する研究を行っています。



つばた ますみ
坪田 益美

社会科教育学

多様性を尊重し合いながら、あらゆる人にとって、より生きやすい社会を構想し、自ら参画し、他者と協働する民主主義社会を実現する市民を育てる教育について、社会科という科目を中心に、研究しています。



ひらびき よしひこ
平吹 喜彦

生態学・ESD

「生態系の恵み」を大切にして、潤いのある暮らしを持続するための調査・提案・実践を、主に大津波被災地で継続しています。



もくだい くにやす
目代 邦康

自然地理学・環境保全論

崩壊や地すべり、高山の植生景観、開発に伴う自然破壊問題、世界遺産やラムサール条約、ジオパーク、天然記念物などの自然保護制度などについて、研究をしています。



やなぎさわ ひであき
柳澤 英明

津波防災・マングローブ森林生態系

津波が発生する理由やマングローブなどの自然環境を生かした津波対策を考えています。



Review of 2023 教育報告 I

3つの基礎論

「社会と産業基礎論」「健康と福祉基礎論」「人と自然基礎論」の3つの基礎論は、1年生対象の必修科目です。この講義では、「よりよい地域コミュニティの実現」をテーマとして、「社会と産業領域」「健康と福祉領域」「人と自然領域」のそれぞれに所属する学科教員全員が全15回の授業のうち数回ずつ登壇し、地域の課題を各々の視点から解説したり、その課題解決の具体的事例を紹介してくれます。また、各教員が専門とするそれぞれの研究分野について取り上げるため、受講生は地域の課題を幅広い視点で理解できるようになります。個性あふれる学科教員の魅力を知り、たくさんの学問分野を一気につまみ食いできる、とてもお得な講義になっています。

2023年度は17名の教員が、それぞれ以下のとおり授業を提供しました。

■ 社会と産業基礎論

● 第1回「地域の高齢者は地域で支える」という期待は現実的か？（佐久間）

“地域で高齢者の生活を支える”という期待の現実性を考察した。過疎山村での現地調査を紹介し、“近隣と対等に付き合うために返すあてのない援助は受けない”という理由から、隣近所に助けられて生活している高齢者はいない現実を説明した。

● 第2回 高齢者にとって地域社会はどんな意義があるか？（佐久間）

近隣への一方的な依存を拒否する高齢者にとっても地域社会は重要という事実を指摘し、この地域社会の意義を、生活基盤の維持、災害時の危機突破、近隣との「つきあい」による自我維持の3点から説明した。

● 第3回 高齢者は住み慣れた地を離れないのは何故か？（佐久間）

農山村の高齢者が“長年住んでいる土地にこれからも住みたい”と願っているという調査結果を示し、近隣の人々との「やりとり」、見慣れた風景や家屋敷等が高齢者のアイデンティティ維持に重要な役割を担っているから、とその理由を説明した。

● 第4回 地域の特性と資源① 都市と農村の地理学（品田）

授業前半では、都市と農山の定義および両者の関係性、また都市地理学と農村地理学とはいかなる学問かについて事例をあげて解説した。後半では、都市としての鉾山集落の景観的特徴とその盛衰の地域差について探求した。

● 第5回 地域の特性と資源② 地域とその資源（品田）

授業前半では、地域資源の定義と分類および地域資源の観光資源化について多様な事例をあげて解説した。後半では、新潟県の石油産業遺産を事例に、地域資源を保全しつつ観光資源として活用することの意義について探求した。

● 第6回「地域で子どもを育てる」の源流（大迫）

「地域で子どもを育てる」ということを、近世日本の村に存在したといわれる若者組を事例に考えた。若者組は、社会（村）を存続させるために重要な教育（人間形成）機能を果たしており、子どもを一人前の村人に育てる上で欠かせない組織であった。

●第7回「地域が抱える課題を学校教育をとおして解決する」の源流（大迫）

学校教育が、いかに社会や産業いいかえるならば地域や職業と結びつくのか、そしてどのような形で地域がかかえる課題を解決できるのかを、山形県旧山元村にあった山元中学校（「やまびこ学校」）での取り組みを事例に考えた。

●第8回 東南アジアと日本の農村文化① 農業と農村社会（遠藤）

宮城県や仙台市の状況と比較しながら、インドネシア、ジャワ島の人口密度や土地利用状況の特徴について解説した。その比較を元に学術的な研究を始める際、どのようなことがテーマ設定のきっかけとなり得るのか考えた。

●第9回 東南アジアと日本の農村文化② ジャワ農村の人口支持力を説明する（遠藤）

非常に人口稠密なジャワ島農村部の人口支持力を説明するものとして、クリフォード・ギアツによる「農業のインボリューション」や「貧困の共有」の概要とそれに対する批判について解説した。日本の農村や農業のあり方の違いを考えるとともに、先行研究について調べる重要性を学んだ。

●第10回 東南アジアと日本の農村文化③ 変わりゆく農村（遠藤）

第9回で学んだ1980年代までのジャワ農村のあり方をふまえた上で、担当教員が現地調査で明らかにした2000年代のジャワ農村の農業と農村社会の特徴について解説した。社会経済的な変動による農業と農村の変化について、ジャワ農村と東北の状況の違いを考えるとともに、現地調査の実施のあり方について学んだ。

●第11回 時空間の地域論① 自然環境と歴史の推移にみるわが国の都市（岩動）

首都圏在住者が抱く東京のタウンイメージを分析し、イメージ展開は都心からセクター性を有する特徴があることを確認した。そのイメージ形成には沖積低地、関東ロームから成る地形や自然環境を舞台として活動してきた先人の歴史性が大きく関与していることを探求した。

●第12回 時空間の地域論② 都市構造と産業集積（岩動）

東京の街を対象にして、川の手地区の町工場、卸売問屋街、都心のビジネス街や中央官庁街、および銀座の商業地、海の手地域のファッションタウン青山・原宿の形成と都市機能について理解し、地域の形成は時空間の論理によって成立していることを探求した。

●第13回 経済地理学からみた地域① 産業立地の基礎（柳井）

事前に「地域」の定義を調べてもらった。授業では、産業立地の中でも基本になる、観察「見る、観る、視る」についてまず解説して、その後、産業統計や産業地域の事例を使って説明を行った。授業後は関連統計について調べるように指示した。

●第14回 経済地理学からみた地域② 地域産業衰退と再生の海外事例（柳井）

事前に経済地理学とは何かを調べてきてもらった。授業では高知県の四万十町、富山県の岩瀬浜地区などを海外事例と比較しながら紹介し、衰退から再生の解説を行った。授業後は商業関連統計から衰退地域の確認をした。

●第15回 経済地理学からみた地域③ 観光産業立地の海外事例（柳井）

事前に産業地域の定義について考えてもらった。授業では中山間地域における観光産業について海外事例を含めて解説し、合わせて廃校舎跡の利活用について考えた。授業後は観光統計を使って当該地の特徴を把握した。

健康と福祉基礎論

●第1回 福祉社会と地域① 地域コミュニティにおける健康と福祉の視点（菅原）

最初に、15回の授業を見渡して、授業の進め方や学習の要点・流れについて解説した。続いて、人々が住み慣れた地域で安心して生活を営むためには人々が健康を維持することが重要であること、そこには年齢、性別、障害の有無に関係なく多様な人々が住んでいること、そうした多様な人々がともに暮らすためには、地域の福祉的な課題を捉える視点が重要であることを強調した。

●第2回 福祉社会と地域② ユニバーサルデザインのまちづくり（菅原）

ユニバーサルデザインについて確認し、身の回りにあるユニバーサルデザインの商品等について紹介したうえで、年齢、性別、障害の有無に関わらずみんなが住みやすいまちづくりの事例について検討し、それらの事例に共通する考えかたを解説した。

●第3回 福祉社会と地域③ 障害者スポーツの世界（菅原）

障害の概念や種類について解説したうえで、障害者スポーツの魅力について解説した。障害の医学モデルと社会モデルの考えかた、リハビリ・生涯スポーツ・競技スポーツという障害者スポーツの3つの側面、健常スポーツとの違いといった事柄にも触れ、「障害」をより幅広い視点で捉えてもらった。

●第4回 市民活動と地域① NPOの基礎知識（大澤）

NPOの定義について解説をし、現在、日本におけるNPOの現状について説明をした。また、諸外国におけるNPOの現状を踏まえ、日本におけるNPOの課題等について考察を行った。また、なぜ今、NPOが求められているのかについて、「政府の失敗」、「企業の失敗」という視点からNPOの将来像について解説を行った。

●第5回 市民活動と地域② NPOの事例紹介（大澤）

NPOの事例について、我が国における学校法人、医療法人、NPO法人の事例を紹介し、解説を行った。その上で、今後、NPO活動を行う上で求められる課題等について明らかにし、NPO活動の促進要因、阻害要因についての説明を行った。また、今後の社会における様々な問題を解決する1つのシステムとして機能するために、行政、企業等との連携・協力の在り方について事例を通して解説を行った。

●第6回 地域福祉と地域① フォーマルな福祉サービス（増子）

地域の福祉課題を解決するためのフォーマルな福祉サービスの種類とその特徴を理解してもらった。

●第7回 地域福祉と地域② インフォーマルな福祉サービス（増子）

地域の福祉課題を解決するためのインフォーマルな福祉サービスの特徴と、活動の担い手としてボランティアの課題を理解してもらった。

●第8回 地域福祉と地域③ 私のまちの地域福祉計画（増子）

地域福祉は、さまざまな人や組織が連携して作り上げるものであること。その指針となるのが市町村地域福祉計画であることを説明して、それぞれ自分のまちの地域福祉計画を調べてもらい、地域福祉への理解を深めてもらった。

●第9回 メンタルヘルスと地域① 地域コミュニティにおける社会的資源とメンタルヘルス（清水）

「健康」とは何かについてWHOの定義から考え、近年の健康についての考え方（健康生成論）とレジリエンスについて解説した。

●第10回 メンタルヘルスと地域② 地域コミュニティにおける心理的支援の諸課題（清水）

健康にかかわる地域の課題として社会的孤立を取り上げ、社会的孤立が健康に及ぼす影響およびそのメカニズムと、ソーシャルサポートについて解説した。

●第11回 学校と地域① 地域コミュニティと学校（泉山）

子どもの成長発達において、地域コミュニティと学校が果たす役割を理解することを目標として、学校統廃合・へき地教育・学校支援地域本部制度について概説した上で、事例紹介により理解を深めた。

●第12回 学校と地域② 地域における学びの機会（泉山）

子どもの成長発達に対して学校と地域における学びがどのように関わるかを理解することを目標として、不登校に対する学校外での支援、学び直しとしての社会教育について概説した上で、事例を元に理解を深めた。

●第13回 社会教育と地域① 高齢期のQOLと生涯学習（原）

この回の小テーマは1) 生涯学習・社会教育領域の研究分野紹介、2) 生涯学習とは何か、3) 高齢者のQOLと学び、の3点であった。高齢者の学びが高齢者のQOLを高めることを講義とディスカッションを通じて理解を深めた。

●第14回 社会教育と地域② 社会教育と地域生活（原）

ドキュメンタリー映画『幸せな時間』を視聴し、高齢者夫婦が共に相手の健康を願いつつも、確実に老い、認知症を患い、死を迎えていく姿から、高齢期を生きること、私たちにとって幸福とは何かを考えた。

●第15回 社会教育と地域③ よりよい教育と地域コミュニティの課題（原）

充実した高齢期を生きるために必要なことについて、教育と学習の面から考察した。地域にはさまざまな学習の機会や場があること、それを支える人、行政、社会のあり方について検討した。

■ 人と自然基礎論

● 第1回 自然災害と防災① 自然災害と防災の基礎（柳澤）

最初に、15回の授業を見渡して、授業の進め方や学習の要点・流れについて解説した。続いて、「自然災害と防災の基礎」というテーマで授業を開始した。自然災害がもたらす被害の大きさは、その地域の自然環境と人間社会の状況に応じて変化することから、まず自然が引き起こす災害要因を知った上で、社会の要請に応じた対応策を検討するための方法について探究した。

● 第2回 自然災害と防災② 自然災害とリスク（柳澤）

日頃から私たちは、身近に潜む自然災害の危険性を知り、それに対応するための最善の方法を選択していくことが重要である。リスクという観点から、災害の規模と頻度の意味を考えるとともに、防災対策の課題について探究した。

● 第3回 自然災害と防災③ 災害と地域性（柳澤）

どのような地域で自然災害が発生しやすいのか、またどのような時に自然災害が発生しやすくなるのか。こうした災害の地域性を知った上で、その地域に適した防災対策のあり方について考え、その有効性と課題について探究した。

● 第4回 地形と人間生活① 日本は世界有数の自然災害多発国（伊藤）

第1回～第3回授業の概要を振り返った上で、人間が生活する場所を形づくる地形が、いつ、どのようにしてできたのかを理解することにより、さまざまな場所の自然災害発生リスクを評価できることを提示した。そして、自然地理学（地形学）の視点から、なぜ日本で自然災害が多発するのか探究した。

● 第5回 地形と人間生活② 日本人はどのようなところに住み、周辺の土地を利用してきたのか（伊藤）

過去の（都市化が進行する前の）日本人の居住地とその周辺の土地利用を取り上げ、沖積低地（沖積平野）、丘陵地およびシラス台地の事例を通して、それぞれの土地利用の実態が地形条件に適応していることを探究した。

● 第6回 地形と人間生活③ 地形から自然とのうまい付き合い方を教えてもらう（伊藤）

過去にどこで、どのような自然現象が起きたのか、その土地の地形から理解できることを提示した。次に、国土交通省ハザードマップポータルサイトを利用して、現在または将来の生活場所における自然災害発生リスクを探究した。

● 第7回 景観生態と地域① 生態学とランドスケープ（平吹）

日常生活や旅先で目にする景観（ランドスケープ）はさまざまで、地域の特徴をよく表現している。第6回までの授業で学んだ地域の災害履歴や防災のあり方、地形、土地利用について振り返った後、「環境と生物（人を含む）のかかわりあい」を考究する生態学の視点から、景観を読み解く方法や意義を描画や模式図作成を通して探究した。

● 第8回 景観生態と地域② 里山・里地・里浜に学ぶ（平吹）

モノや情報の流れがグローバル化する20世紀後半より前、人々は自給自足、資源循環、相互扶助を大切にしながら、地域という空間、環境、社会で暮らしていた。丘陵地、沖積平野、海岸を取り上げ、それぞれの自然環境の特徴と、そこで育まれてきた伝統的な知恵・技法・思想について、「持続可能性」に着目して探究した。

●第9回 景観生態と地域③ 生態系サービスとその持続的享受（平吹）

「自然の恵みと災い」の下で暮らす私たちは、気候変動、大規模災害、環境汚染・破壊の深刻化によって、かつてない危機に直面している。Nature-based SolutionsやSDGsといった国際的な取り組みを紹介し、その背景、実践事例、課題を探究した。

●第10回 多様性との共生① 自然との共生が生み出す伝統文化と継承を通して（坪田）

これまでの自然科学的な学びを踏まえて、まず人や社会と自然環境が共生する必要性とその意義について、伝統文化の意味を考えることから授業を始めた。そして、伝統文化の継承は、人々が安心安全に生きていくための共同体を維持する上で、大きな役目を担っていることについて探究した。

●第11回 多様性との共生② 避難所運営アクティビティを通して（坪田）

人が自然と生きていく上で避けては通れない天災。避難を余儀なくされた際に拠り所となる避難所の運営に着目して、さまざまなアクティビティを抽出・分析することを通して、多様な人々が協力すること、分業することでこそ、互いにとってよりよい共同体が生まれることを学んだ。

●第12回 多様性との共生③ 防災減災教育を通して（坪田）

「防災・減災を担うことができるのは誰か？」という発問について話し合う活動を通して、子どもたちにもできることがたくさんあることへの気づきを促した。次に、これまで3回の授業を振り返り、人類に多様な恩恵と災害をもたらす自然と共生する上でも、さまざまな年代の、さまざまな人々が互いに役割を担い合って生きることの価値を体験させる教育が、社会の成員としての自覚と責任感、実践力を育てる点で重要であることを学んだ。

●第13回 自然環境の保護① 人類による自然の利用（目代）

最初に、これまで12回の授業の流れ・要点を整理し、「自然環境の保護」をテーマとする第13回～第15回授業の概要を伝えた。そして、今から約1万年前に気候が温暖化したことにより農業が開始され、18世紀後半には産業革命により地下資源の大量消費が進むようになったという「人類と自然環境の関係史」を振り返った上で、現代文明の基盤をつくる自然資源の利用について探究した。

●第14回 自然環境の保護② グローバルな環境問題（目代）

私たちが生きているのは、工業生産に伴う有害物質の不適切な処理によって公害が引き起こされ、温室効果ガスの排出によって地球温暖化が進む時代である。さらに、野生生物は減少し、生物多様性の劣化も問題となっている。こうした地球規模の環境問題について、身近な事例に基づいて探究した。

●第15回 自然環境の保護③ ローカルな環境問題（目代）

環境問題は、地球規模のものだけでなく、ローカルレベルの問題も多数存在し、その認識・解決はよりよい地域コミュニティの実現のためには必須である。特に東北地方で発生している環境問題を取り上げ、その解決方法について多角的に探究した。最後に、「地域の土台となる人と自然の関係」に関する15回の授業全体を振り返った上で、学修内容の総括を支援する課題を提示した。

Review of 2023 教育報告 II

地域コミュニティ学基礎実習

1年生の実習科目として「地域コミュニティ学基礎実習」がおこなわれました。この科目は地域調査のためのデータ収集・解析、レジュメ作成、発表技法の基礎を習得することを達成目標とするものです。

2023年度は7つのコース（5週で1コース）が提供されました。これらのコースは「社会と産業領域」、「健康と福祉領域」、「人と自然領域」の3つの領域から提供されており、15週のなかですべての領域のコースをまんべんなく受けることができるよう、カリキュラムが作られています。今年度は学生が14～27名のコースに分かれて実習が行われました。

コース1 仙台市中心部の歴史的変容をたどるまち探検

●担当教員

岩動志乃夫（社会と産業領域）

●授業内容

第1週…ガイダンスと実習の取り組み方の説明

第2週…地域や都市構造に関する論文講読と発表

第3週…都市機能の波及に関する論文講読と発表

第4週…仙台市中心部でのまち探検とお宝探し調査

第5週…グループ発表と課題提出

●担当教員からのコメント

地域の見方、考え方、捉え方についての論文を提示して講読し、その内容を発表・討議して基礎知識を身につけました。そのうえで、仙台市中心部を巡見し、旧奥州街道の変容、中心業務街の都心機能、商店街や歓楽街での景観調査や経済的地代の調査を実施して、都市の本質を探究しました。



▲ 仙台浅草で業種構成の調査



▲ 芭蕉の辻で都市の魅力調査

コース2 仙台市中心商店街の見え方・見せ方

●担当教員

佐久間政広・柳井雅也・品田光春（社会と産業領域）

●授業内容

第1週…本の読み方

学術的文章を読むための技法やレジュメ作成の手法を学びました。宮内泰介『人びとの自然再生』（2017）を題材に、レジュメ作成、構造的な読解、グループ討論を実践しました。

第2週…文献・統計・地図の探し方、読み方

CiNii research、学会HP、TGUサーチ等の利用法を学びました。また統計の種類と信頼度、地図の読み方（読図）等も学びました。授業後に読図を行い提出しました。

第3週…商店街実習の基礎知識

仙台市中心商店街関連のコラム、統計、地図を使ってワークショップ形式で討論しました。授業後に当商店街の実態と課題を整理しました。

第4週…現地調査

一番町4丁目と新伝馬町公園の読図を行ったうえで、現地を訪問し、店舗の特徴や集積、景観の移り変わりなどについて、解説と現地でのディスカッションを行いました。

第5週…まとめと発表

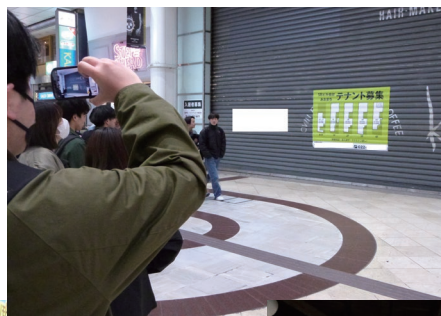
世代別に見た商店街の見え方や特徴を整理し、ワークショップ形式でディスカッションを行った後に互いに発表しました。授業後は実態調査の意義を整理して提出してもらいました。

●担当教員からのコメント

まず、研究論文の読み方指導を通じて、論文の構成、文献の評価の仕方、文献・図法の記載方法、統計地図の調べ方と読み方の基礎をアクティブ・ラーニングによって学びました。そのあと、仙台市一番町4丁目と新伝馬町公園を対象に、学んだことを適用しながら実地調査を体験することで、学術的な調査法を身に着けることができました。



▲ ただいま考え中



◀ 空き店舗の看板



▲ 現地で説明を聞く



▲ 商店街に井戸が

コース3 オリジナルのハザードマップを作成する

●担当教員

遠藤 尚（社会と産業領域）

●授業内容

第1週…地域について文献から調べる&地図を見てみよう！

学授業前半では地域について知るために役立つ文献やwebサイトなどを紹介しました。授業後半では、「地理院地図」「今昔マップ on the web」など、地図を閲覧・利用できるサイトやアプリを体験しながら学びました。その後、「今昔マップ on the web」を用いて自分の住んでいる地域の土地利用の変化について調べました。

第2週…地域の人口構成を知る。

地域の人口に関するデータの入手方法を解説した上で、e-statを用いて国勢調査の小地域集計データをダウンロードし、自分の住んでいる地域の人口ピラミッドを作成しました。その後、実習を踏まえてもう1時点の人口ピラミッドを作成し、2時点間の人口構成の変化について調べました。

第3週…地域の災害リスクを知る。

授業前半では「ハザードマップポータルサイト」から自治体が公表しているハザードマップを閲覧する方法を解説しました。その後、各自、自分の住んでいる地域について、自然災害のリスクを調べました。授業後半では、「地理院地図」を用いて、住んでいる地域の地形条件や災害に関する情報を重ねて表示し、確認する方法などを学びました。

第4週…オリジナルのハザードマップの作成

これまで学んだ内容を踏まえた上で、ハザードごとの自宅周辺の危険箇所や避難経路、災害の際に役立つ施設などを調べました。それらの情報を「地理院地図」の地図に重ねることで、オリジナルのハザードマップを作成しました。

第5週…オリジナルのハザードマップの発表

作成したオリジナルのハザードマップや関連して調べた内容を活用して、PowerPointのスライドを作成し、住んでいる地域の特徴や自然災害のリスク、避難の際に気をつけるべきこと等について発表しました。

●担当教員からのコメント

教員に確認したり、受講生同士で教え合ったりすることで、全員が5週の授業内で調査・解析・発表の一連の流れを体験することができました。また、一連の実習を通して、受講生各自が自らの得意な点、苦手な点を確認することができていました。それを踏まえて、3年後の総合研究に向けてさらに学修を進めて欲しいと思います。



▲発表資料① 避難経路上の問題点



▲発表資料② 洪水避難時の課題

コース4 宮城県の市町村における健康と福祉

●担当教員

増子 正、原 義彦（健康と福祉領域）

●授業内容

第1週…オリエンテーションとレジュメ作成のコツ

第2週…論文・文献検索のコツ

第3週…宮城県内市町村の「健康と福祉」に関するデータ収集のポイント

第4週…収集したデータ分析の方法

第5週…レジュメの作成と発表

●担当教員からのコメント

BYOD科目の特徴を活かして健康と福祉に関するデータの収集のコツと分析方法を伝えるとともに、発表用のレジュメの作成に力点を置いた指導を行ないました。指導プログラムを評価するため学生へのアンケートを実施した結果、「自分でテーマを決めることからやることは大変でしたが、完成に近づくにつれて達成感を感じることができた」「レポートを作るという自分の技術がとても上がった気がしました」「授業のレジュメづくり、データの分析の仕方の基礎的な部分を学ぶことができた。また膨大なデータから必要なデータを見つけることは非常に難しいと感じた。様々なデータに触れ、慣れていくことが大切だと思った。」など、学修の自信につながったとの意見が多く寄せられました。



▲ 作成したレジュメ(PCで共有)を用いた発表



▲ グループに分かれて相互に発表

■ コース5 ノーマライゼーションを目指して！！

● 担当教員

大澤史伸・菅原真枝（健康と福祉領域）

● 授業内容

第1週…ノーマライゼーションとは

第2週…調査・解析技法入門

第3週…車椅子利用者による特別講義

第4週…キャップハンディ体験（校内および大学周辺地域のフィールドワーク）

第5週…グループ発表と質疑

● 担当教員からのコメント

実際に車椅子を利用して生活している当事者のお話をうかがい、障害をどう捉えるか、障害のない社会の実現のためにはどのような視点が必要かについて深く考えることができました。また、キャップハンディ体験をつうじてキャンパス校内や荒町商店街を歩くことで、出来る限り当事者の視点にたって社会環境づくりについて考察しました。調査したことを発表資料にまとめて互いに発表してみると、同じフィールドワークをおこなったにもかかわらず、グループによって捉え方にさまざまな違いがあることが実感できたはずです。天候に左右されがちで、キャップハンディ体験も限られた時間内の体験的な内容ではありましたが、講師の先生や仲間との対話をつうじた気づきが多く、視野が大きく広がる実習となりました。



▲ キャンパス内でキャップハンディ体験



▲ 商店街を歩いてみる



▲ グループワークの成果発表

コース6 地形の成り立ちと洪水ハザードの関係性

●担当教員

伊藤晶文・柳澤英明（人と自然領域）

●授業内容

第1週…フィールドワーク：地図を持って街を歩き、土地の起伏を観察・記録する

地域にみられる土地の起伏は、普段気に留めないことが多いものの、土地（地形）の成り立ちと深く関わっている場合があります。五橋キャンパス南側の荒町および土樋周辺を歩き、急な坂道や崖、傾斜の変わるところに着目し、地図に記録しました。

第2週…室内作業：地理院地図（Web地図）を用いた作業と空中写真判読

地理院地図（Web地図）を用いた作業と空中写真判読により、第1週のフィールドワークで観察・記録した土地の起伏を再確認するとともに、土樋キャンパス周辺も含めて土地の起伏を記録し、文献資料も併せて土地の成り立ちとの関係を確認しました。

第3週…高さの測り方とフィールドワーク：三角測量の原理を知る

学生が持つスマートフォンの角度センサー機能を使って、三角測量により、土地や建物の高さを測る方法を学びました。さらに、地域の自然を探求することに生かすため、米ケ袋や広瀬川河川敷を歩きながら、崖を計測して高低差を実感するとともに、その土地の履歴について観察しました。

第4週…室内作業：Google Earthを用いた調査データの整理

第3週で実践したフィールド調査により得た写真データや調査地点、経路、記録などをGoogle Earthにてマッピングして、土地の起伏や洪水ハザードとの関係性を理解しました。

第5週…フィールドワーク：洪水と土砂災害の複合災害地区を考える

広瀬川沿いにある越路地区は、洪水と土砂災害が発生する可能性のある複合災害地区です。このような地域で、ハザードマップを見ながら歩くことで、身近な地域に潜む危険を実感するとともに、これらの危険に対する防災対策を考察しました。

●担当教員からのコメント

フィールドワークでは、自分の位置を常に把握していないと、情報が得られた位置を記録することができません。今回の学習をとおして、得られた情報の位置を地図に正しく記録することの難しさや重要性を実感してもらえたのではないかと考えています。



▲ 広瀬川沿いの越路地区を歩く



▲ 洪水や土砂災害が発生しそうな場所を確認

コース7 「土地と緑」の特徴・成り立ちを考える

●担当教員

目代邦康・平吹喜彦（人と自然領域）

●授業内容

第1週…導入および地形図を読み解く

テーマやねらい、各回の内容、持ち物、フィールドワーク時の留意点・安全対策、実習ノート・実習ポートフォリオの作成、担当教員との連絡方法などについて確認しました。続いて、「鳥の目で地域の特徴を抽出し、調査の場所や方法を策定する」上で不可欠な地形図を読み解き、活用する方法を学びました。あわせて、インターネット上で無償提供されている空中写真や衛星画像、現存植生図、土地利用図といった空間地理情報へのアクセス方法や活用方法も学びました。

第2週…土地利用・植生に関するフィールドワーク

五橋キャンパス近隣の市街地や広瀬川河畔、愛宕山などを訪問し、「植生の違いを、その成り立ちに強く関与する地形・立地・人為と関連付けた調査」を実施しました。第1週で準備した地形図・簡易植生図や調査・記録器具を持参し、小グループで共同して取り組みました。室内に戻り、規格化された個票を活用してとりまとめと比較・考察を行いました。

第3週…学術的な文献を検索し、情報を整理・分析する

学術的な情報が、どのような形で発信されているかを解説したうえで、そうした学術情報を探す方法を、実習しながら学びました。また、地形図や空中写真などの地域の自然を調べる際に基本となる情報はインターネットで公開されているので、それらへのアクセス方法を学び、それらを用いた実習も行いました。

第4週…地形の観察

五橋キャンパスと土樋キャンパス、さらにそれらから広瀬川にかけての河成段丘の地形について、1万分の1地形図で等高線の読み取りなどの図作業をおこなった上で、地形図を見ながら現地観察を行いました。等高線で示されている傾斜が実際にはどの程度の傾きを持つのかなど、歩きながら地形を体感して、その場所の成因を考えたり、そこで今後どのような自然災害が起こりうるのかということを考えていきました。

第5週…全体をまとめ、発表する

前4回の実習結果を持ち寄り、「地域の土地と緑の特徴・成り立ち」について、レポートとプレゼンテーションの2様式で総合的にとりまとめました。小グループで発表し、質疑を行いました。その後、学修成果を提出してもらいました。

●担当教員からのコメント

地域の自然環境を知ることは、自然科学分野に限らず、地域の事柄を調べるうえで必要となります。そのため、地形図・空中写真の利用方法や地形・植生の簡単な調査方法は、重要なスキルとなります。地域の自然環境を把握できる基本的スキルを身につけられるように指導をしています。学生に実習後に提出してもらったアンケートでは、「初めてフィールドワークなど行い、地域調査の仕方や着眼点を学ぶことができた。」「インターネット上にあるものを見るのと、自分自身が直接見るのでは大きな違いがあることに気づけた。」などの回答があり、実際に現地を歩くことで見えてくるものがあることを感じているようでした。



▲広瀬川で水辺植生を観察



▲等高線を読みとる

Review of 2023 研究報告

総合研究タイトル一覧

地域コミュニティ学科では、卒業するための要件のひとつとして、4年次に「総合研究Ⅰ・Ⅱ」を課し、探究的な学習活動と卒業論文の作成を設定しています。科目の名称が示すように、この授業では4年間の机上やフィールド、授業や社会的活動における学びを振り返りながら、その集大成ともいえる卒業論文を作成します。卒業論文の執筆には、想像以上の時間と労力を必要とします。指導教員やゼミのメンバーに支えられながら、悩み、考えぬく時間となるはずです。

ここに掲載したリストは、今年度、地域コミュニティ学科に所属する教員が指導し、審査を経て受理された教養学部学生の卒業論文の情報です。地域コミュニティ学科で実際にどのような研究に取り組むことができるかを知る参考になさってください。

担当教員 ● 岩動 志乃夫

- 大学キャンパス移転による荒町商店街の変化
ー飲食店経営者のアンケート結果よりー
- 仙台市泉区の大学キャンパス移転による居住空間の変化
ー学生向けアパート・マンションの需要変化についてー
- 『宮城県松島町におけるCOVID-19流行期の観光事業の対策とこれからの展開』
ー松島パークフェスティバル開催の経緯とその特性ー
- 仙台市青葉区追廻地区にみる軍用地の接收・転用とインナーシティ問題解決に向けた行政の対策と展開
- 山形県におけるクラフトビール醸造所の立地と経営特性
- 最上紅花の世界農業遺産登録に向けた取り組みと課題
- 山形県東根市の新興住宅地と住宅購入者の特性
～山形県の都市に基づいて～
- 盛岡市におけるパン製造小売店の展開と立地特性
ー個人自営製造小売店の特性についてー

担当教員 ● 遠藤 尚

- 韓国人留学生の生活適応過程とエスニックネットワークの機能
ー東北大学 韓人留学生会を事例にー
- 東日本大震災後の災害対策と高齢住民の防災意識
ー南相馬市鹿島区台田中地区老人会の事例ー
- 「はらこめし」の喫食状況と現在の役割

仙台市における子どもの居場所づくりを行う施設の立地

ナイトライフにおけるクラブカルチャーと来訪者の特性
～仙台市を事例に～

尾花沢市銀山温泉におけるインバウンドの増加背景
～2000年以降に着目して～

サウンドスケープの視点から考察する松島基地の航空機飛行音の評価と住民意識について

担当教員 ● 大迫 章史

「道徳の教科化」に伴う道徳教育の課題
～中教審答申の観点から～

高校生ボランティアの活動継続動機を高める活動内容について

児童の学校音楽離れの実態について

戦後日本における教育の思想的背景
～占領下の教育改革に着目して～

自然体験活動が教職志望学生の教職志望度や意欲に及ぼす影響

生成AIとWBMT (Web Based Machine Translation) を援用した英語ライティング指導の課題点と学習者の反応、T-unit 内語数の推移から見る流暢さの向上について
～教師とAIによる1.5人体制の授業の考察～

担当教員 ● 佐久間 政広

宮城県角田市の農産物直売所「産直広場めぐりっと」はなぜ売上を伸ばしているのか

消費者の楽しみの場としての農業
～「せんだい農業園芸センター」と「JRフルーツパーク仙台あらはま」を事例として～

宮城県大和町宮床地区における大規模稲作農家の過去と現在

東日本大震災後のヨソ者による教育事業への関わり
～二人のキーパーソンを中心に～

山形県朝日町における「もう1つ」の地域振興
～「ゲストハウス松本亭ー農舎」の事例～

アニメファンの聖地巡礼による地域活性化

阿武隈急行の存続をめぐる

富谷市におけるブルーベリー生産の現状

岩手県宮古市における中心商店街の地域振興と今後の展望

資源減少下の小型イカ釣り漁業の経営展開
～綾里の一漁家の例～

山形鑄物の存続構造

担当教員 ● 柳井 雅也

宮城県仙台市における韓国料理屋の実態と展望

農村部の過疎地域における移動を伴う生活行動の特徴とその課題
～宮城県大崎市大貫地区を事例に～

宮城県亘理町のはらこめしの現状と課題
～東日本大震災以降から現在まで～

環境に配慮した養殖への移行に伴う生産構造の変革
～南三陸町戸倉地区マガキ養殖を事例に～

温泉観光地における新規出店店舗の実態と課題
～仙台市秋保地域を事例として～

宮城県名取市下余田地区における仙台せりの現状と課題

加美町の音楽による新産業創出への取り組み
～国立音楽院宮城キャンパスを事例に～

宮城県仙台市におけるアニメ聖地巡礼の現状と課題
～宮城県を舞台とするバレー漫画の施設見学ツアーを参考に～

登米市産仙台牛の実態と課題

宮城県におけるフリースクールの運営の現状と課題

担当教員 ● 大澤 史伸

非営利組織のジレンマ

～社会福祉法人「光の子どもの家」の事例～

エスコンフィールド北海道をモデルにプロ野球を通して図る野球人口増加の可能性

食品企業におけるCSRの現状と未来

～アヲハタ(株)と特定非営利活動法人ふうどばんく東北AGAINから学ぶ企業とNPOの連携～

宮城県における子ども食堂の現状と発展可能性について

地域交通におけるバスの在り方

～少子高齢化による社会構造の変化を受けて～

地域の遊び場の変遷と活性化への取り組み

次世代経営者による事業承継の選択肢

女子野球における人口増加の要因と分析

Jリーグクラブの地域貢献活動における地域活性化について

～ベガルタ仙台を事例として～

担当教員 ● 清水 貴裕

キャラの有無が友人関係と対人欲求にどんな影響を及ぼすのか

笑いの頻度と主観的幸福感の関係

エスカレーターでの人々の心理と行動の関連

大学生の断り方と友人に対する信頼感・自尊心との関連

中学校教師の年代との生徒との関係づくりのための行動や態度の関連

大学生のサークル集団と自己形成の関連

大学生の自意識が対人ストレスに及ぼす影響

担当教員 ● 菅原 真枝

地域における高齢者と若者との関わり方について

－高齢者と大学生ボランティアの交流活動をもとに－

スポーツの習い事を支える親の意識

子どもの「第3の居場所」と適切なサポート方法について

介護現場の人手不足と学生の意識

「ヤングケアラー」支援における課題と今後の支援方法について

－仙台市における支援を事例として－

若者の就労支援に対する意識調査

－就労支援機関の認知度の現状と解決策について－

岩手県の農業における高齢者・障害者雇用の課題と未来

－一般社団法人すばると特定非営利活動法人里つむぎ八幡平が行う農福連携を通して－

障害者就労支援の現状と課題

－工賃向上の取り組みから考える－

担当教員 ● 原 義彦

大学での学習や活動が社会人基礎力の形成に及ぼす影響について

－東北学院大学を例に－

仙台市若者社会参画型学習推進事業の成果と課題

～自己肯定感の向上に及ぼす影響に着目して～

男性差別と女性優遇の認識について

～身体的性別、きょうだい構成と家庭内の経験、アルバイトにおける清掃経験に焦点を当てて～

大学生の新人指導経験と指導能力への意識

担当教員 ● 増子 正

地域における一人暮らし高齢者の支援活動の在り方

少子・高齢化社会における「就活」と「就活」

学校を活かした地域コミュニティの形成

IT機器を活用した見守り活動の課題解決と今後の可能性

福祉国家における分配

～北欧の人格崇拜に着目して～

高齢者の認知機能低下に伴う見守りの課題と提案

担当教員 ● 平吹 喜彦

「海を眺めて暮らすまち」を体現した女川町の復興まちづくり

水害ハザードマップの住民利用に関する実用性の検討
ー山形県南陽市に着目してー

庄内海岸における海岸林の歴史とその現代的な役割・保全について

PT法による土壌動物調査から見た亘理町海岸再生林の立地多様性評価

担当教員 ● 目代 邦康

砥沢川の形態的特徴

ー迫川支流小手沢流域の地形発達

担当教員 ● 柳澤 英明

市民主体の津波防災まちづくりに必要な基礎作りについて
ー数値シミュレーションツールの実践的活用方法の検討ー

海岸林と盛土の津波防災効果
ー津波シミュレーションを使った検証ー

SNSを活用した正確な情報取得と避難方法の確立

地域資源を活かした防災教育の可能性と課題

岡田新浜地区における津波襲来後の土壌変化と海岸林回復の関係性について

仙台平野海岸林再生地における植生回復に関する環境要因に関する検討

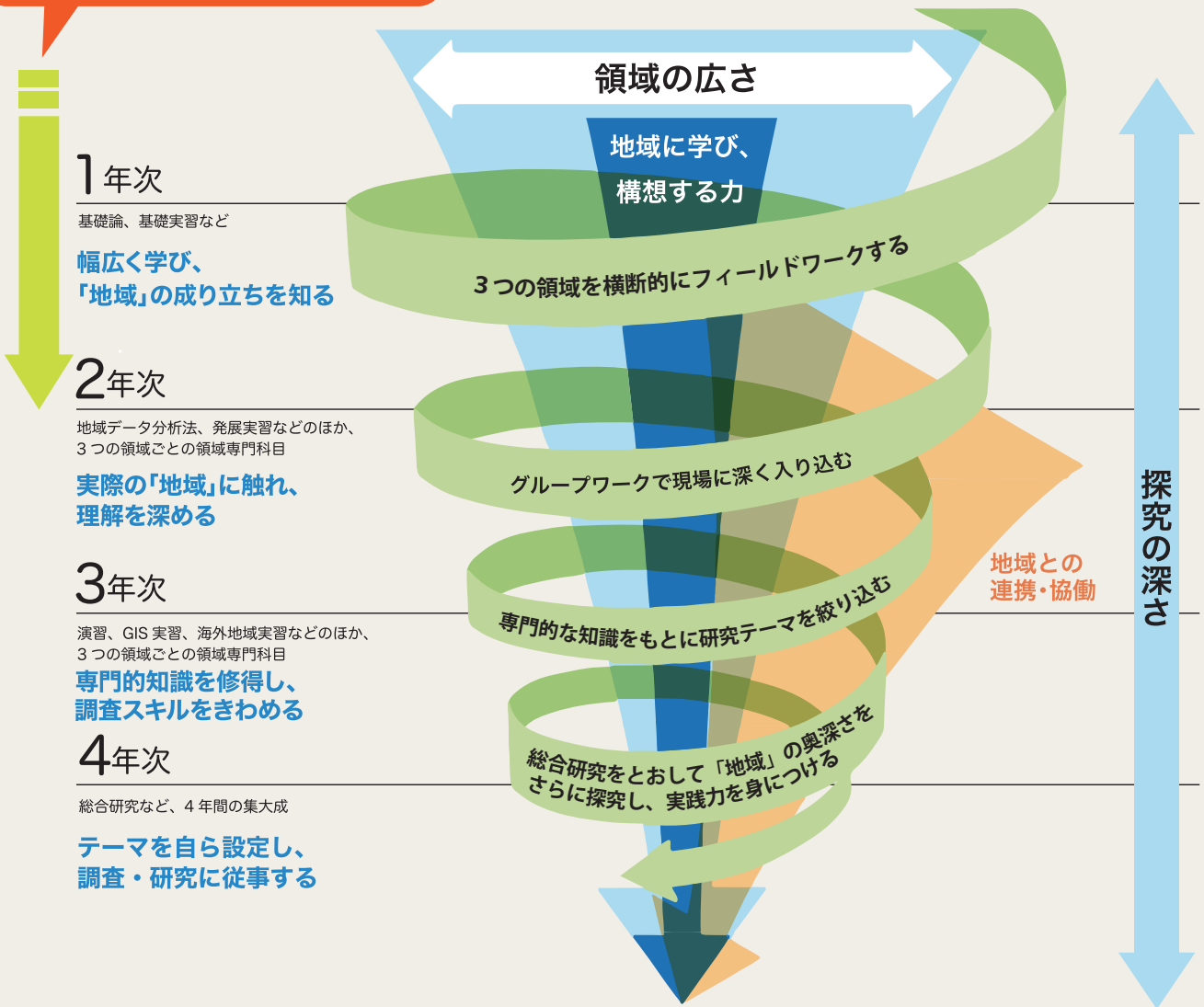
石巻市における最大クラスの津波想定分析

防潮堤の有用性の地域差について

効果的な津波防護施設のデザイン方法についての検討

地域コミュニティ学科 4年間の学び

2023年度
地域コミュニティ学科がスタート！



この冊子は、
2023年度入学の1年生を
対象にした学科の学びを
紹介したよ。
これからもよろしくね。



2023年度
地域コミュニティ学科研究教育報告書

フィールド×発見

発行日 2024年3月29日

● 編集・発行 ●

東北学院大学 地域総合学部 **地域コミュニティ学科**

■ お問い合わせ

〒984-8588 仙台市若林区清水小路3-1
地域コミュニティ学科合同研究室
TEL・FAX 022-354-8171



地域コミュニティ学科HP

■ 印刷

株式会社 東北プリント

フィールド×発見

2023年度 地域コミュニティ学科研究教育報告書



東北学院大学

<https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>